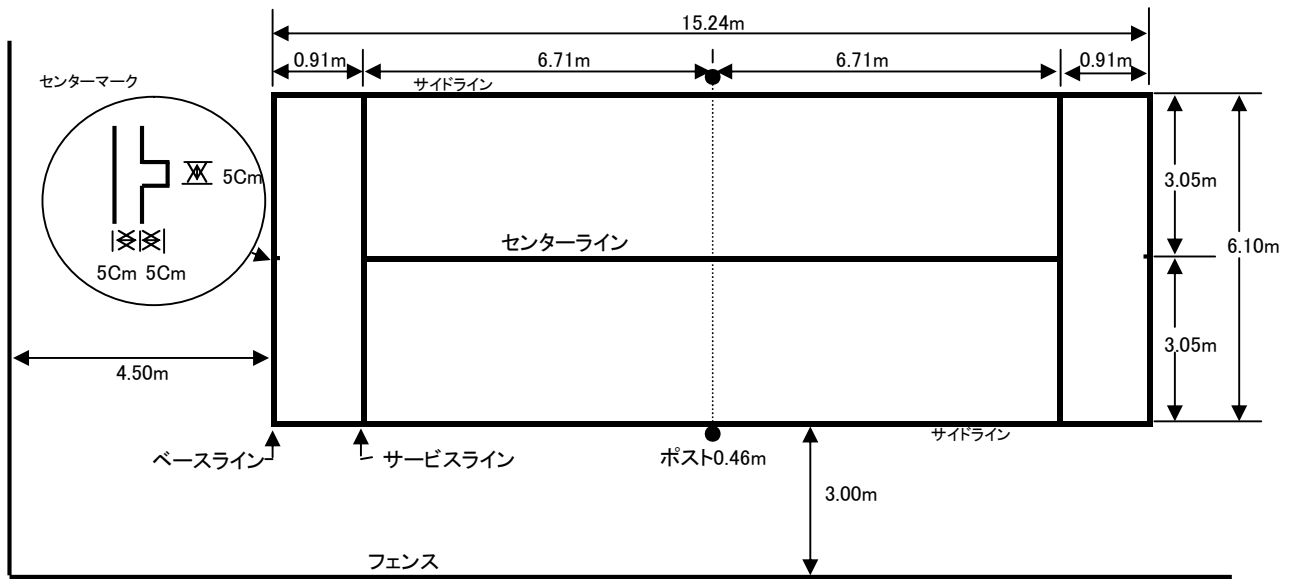
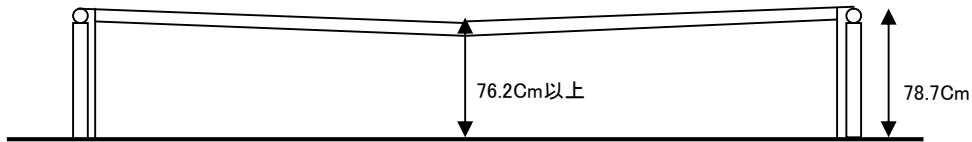


コート

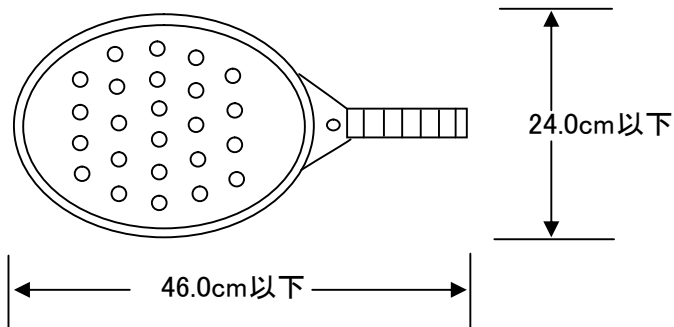


ネット及びネットポスト



パドル

パドルの規格は以下の寸法だけが規定されているが、材質は木、合板、グラスファイバーなどがあり、重さ、表面の形状には規定がありませんが、テニスラケットの様にガットを張ったものは使用できません



ボール

日本パドルテニス協会公認ボール

ルール

ルールは(財)日本テニス協会の「テニス・ルール」に準拠します

唯一の違い

サーブ：アンダーサーブ(腰より下)とファーストサービス1本のみである

ルール改定

2006/7、日本パドルテニス協会より以下の様にルール改定がありました(原文)

現行のルールは日本パドルテニス協会の発足時にUSPTA(UNITED STATES PADDLE TENNIS ASSOCIATION=アメリカパドルテニス協会)の承諾を得て日本語に翻訳の上採用したのですが、最近になってシングルの試合でのワンバウンドルールに誤訳があることが判明しました。

つきましては下記のとおり直ちに新ルールを適用することにいたします。

改正前

シングルのときは、相手の打球を自分側のコートにワンバウンドさせてから返球しなければならない。

改正後

シングルのときは、サーバーは相手の返球(レシーブ)を自分側のコートにワンバウンドさせてから返球しなければならない。

参考資料: 日本パドルテニス協会発行「パドルテニス」

詳細は日本パドルテニス協会のホームページをご覧ください

シャッフル方式（勤福方式）について

体育館開放などで不特定多数のプレーヤがゲーム形式の練習を行う際、プレーを望むものが男女や技術レベルの差に係らず公平に同量の練習ゲームが行えるよう中野の勤労福祉会館での開放で考案された練習ゲームの組み合わせ方式。

<条件>

1. コート面数とプレーヤーの人数：

コート面 2面以上 プレーヤー 8人以上

◎プレーヤーの数はコート面数の4倍から7倍程度が望ましい。

◎7倍を超える場合は1試合のゲーム数を減らすなど、開放時間内で出来るだけ多くの試合回数を消化できるように調整する。

◎4倍未満の場合はコートを1面使用せずこの方式の機能を優先する。

（残った1面は待機者の練習コートとしても良い）

2. 全員がこの方式に従う：

1組でも従わないグループがあると、他のプレーヤーとの試合数に著しい不公平が生ずる場合があり、場合によっては他のプレーヤーがこの方式でゲームを行うことが出来なくなる。

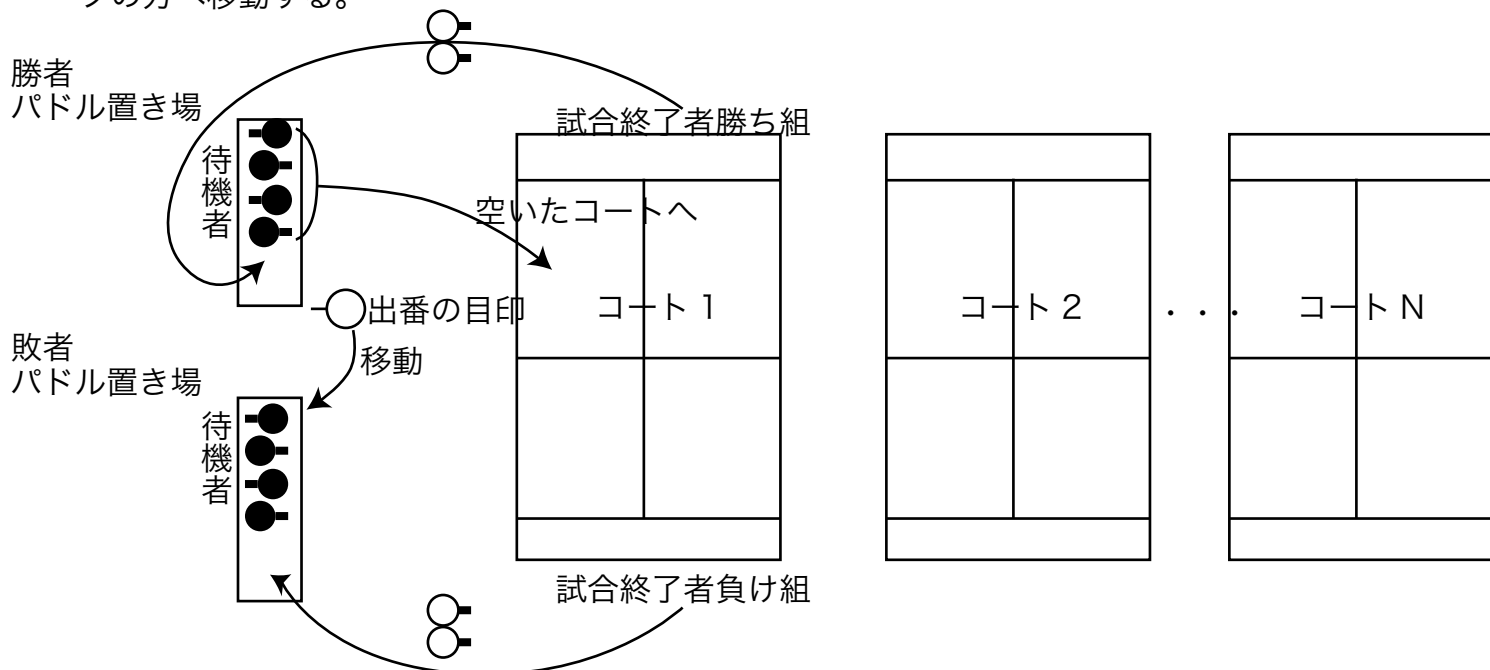
<進め方>

1. はじめはジャンケンやくじ引きで順番を決め、4人ずつコートへ出て行く。

この際は順番どおりにペアを組んでも、再びジャンケンで勝ち同士負け同士が組んでも良い。コートが埋まったら、待機する者は順番どおりに勝者パドル置き場へ4人、更に残った者は敗者パドル置き場へ4人その後は勝者敗者の順で置いていく。

2. 試合が終わったグループは、勝ち組は勝者パドル置き場の待機者の後にパドルを置き、負け組は敗者パドル置き場の待機者の後にパドルを置く。

3. 待機組は、初めは最初の順番の若い方（勝者パドル置き場で待機）から空いたコートへ出て行く。この際、出番グループを示す目印（団扇でもなんでも良い）を次の出番のパドル置き場へ移動する。その後は、出番のきたグループが出て行く時点で（出て行く組が責任を持って）目印を次のグループの方へ移動する。



<シャッフル方式のルール>

- 1.2 回目以降に試合を行うグループでは、直前の試合で組んでいた者達は必ずジャンケンで別れ、他の 2 人が前回組んでいなくてもジャンケンで別れて勝ち同士負け同士がペアを組む。
この時、男女や技量のクラスで調整はしないことが原則（調整が行われると、同じペアが延々と組むという弊害が生じるケースがある）。
どちらかのペアが以前の回に組んでいた場合、組んでいないもの同士がペアを組めるよう調整することは許可される。
2. 遅れてきた人は、次に出る順番のグループの最後にパドルを置いて待機する。
途中休憩などでパドルを外した人も再度試合に入るときは同様とする。
3. 試合をしていた 4 人が同時に休憩する場合、再参加するときは 4 人同時に同じグループの待機場所へつくことは許可されない。
(2 人ずつ別のグループの後につき、試合では別れること)
4. ペア練習をしたい人は他の参加者の同意を得ることを原則として許可されるが、順番待ちでは 1 人で参加しているものを優先する。



左図の場合は、ペア A と個人 A 個人 B の組が試合を行う。ペア B は次のこの組の中での優先権を持つ。

5. 順番となったグループの待機者の人数が 4 人より少ない場合、試合の終わった組のなかで、待機者が勝者組なら勝者から、敗者なら敗者から足りない人数が残る。(待機者が偶数でないとき残るものはジャンケンでも話し合いでも良い)
- 6.5. のようなケースでの進行の具合で、試合が連続して疲労を回復するため休息を取りたいときは、次の順番のグループの中から交代者を依頼することは許可される。

<応用>

- ◎コート数が 6 面以上で参加者がコート数の 4 倍を超えるようなケースでは、男女や技量のクラスで複数のブロックをつくり、それぞれでシャッフル方式を行うことも考えられる。
また同様の条件下で、大会前などでペアーが多い場合は、ペアー組はペアー組で通常どおりの順番で練習試合を行い、個人参加者のみでシャッフル方式を行うこともできる。